



## 「2026年1月13日の南西強風」

2026年1月13日は、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海からオホーツク海に進んだ影響で気圧の傾きが大きくなり、全国的に強風となりました。成田空港でも低気圧や前線に向かう南西風が強まり、飛行場強風警報を発表しました。また、滑走路に対する横風が強まったため、ゴーアラウンドが多数発生し、ダイバードが12便となるなど運航に大きな影響が出ました。

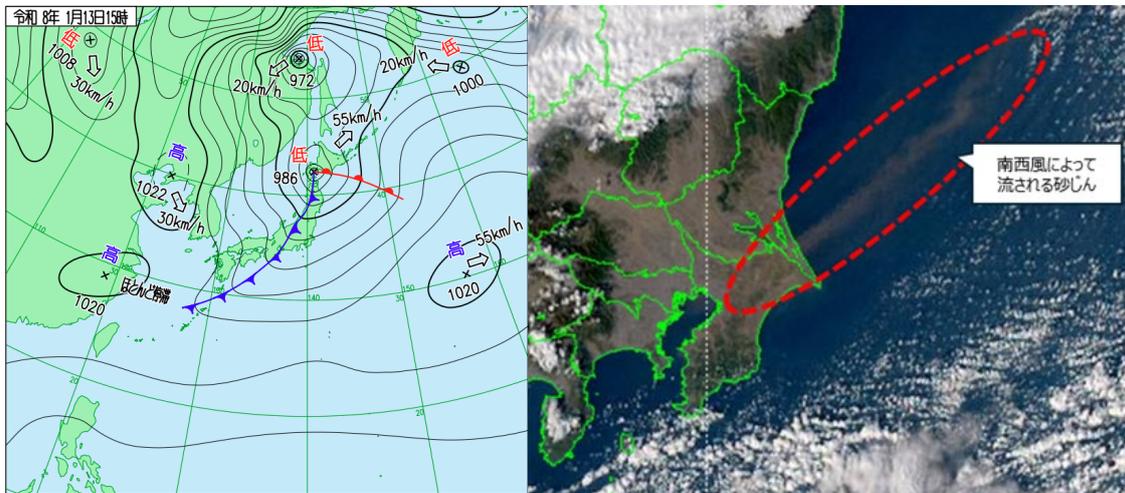
気象台の観測では、10時過ぎから風速が15ktを超えて強まり始め、断続的にガストを伴った20kt前後の南西風が18時頃まで続きました。また、強い南西風により空港周辺の砂が吹き上げられ、12時から15時にかけては高い風じん（BLDU）を観測し、南西から西側の方向視程が4000mに悪化しました。この南西風によって吹き上げられた砂じんが房総半島から鹿島沖に流されていく様子は衛星画像でも確認できました。

風の観測結果は代表風であるA滑走路34Lの風向風速計の値となりますが、南西風の場合はA滑走路では防音林等の影響によりB滑走路側の34Rや16Lの風向風速計に比べて風速がやや弱くなる傾向があります。13日も34Rや16Lでは、代表風である34Lに比べて5kt近く強く吹いた時間帯もあり、一時的に30kt前後の強風となっていました。

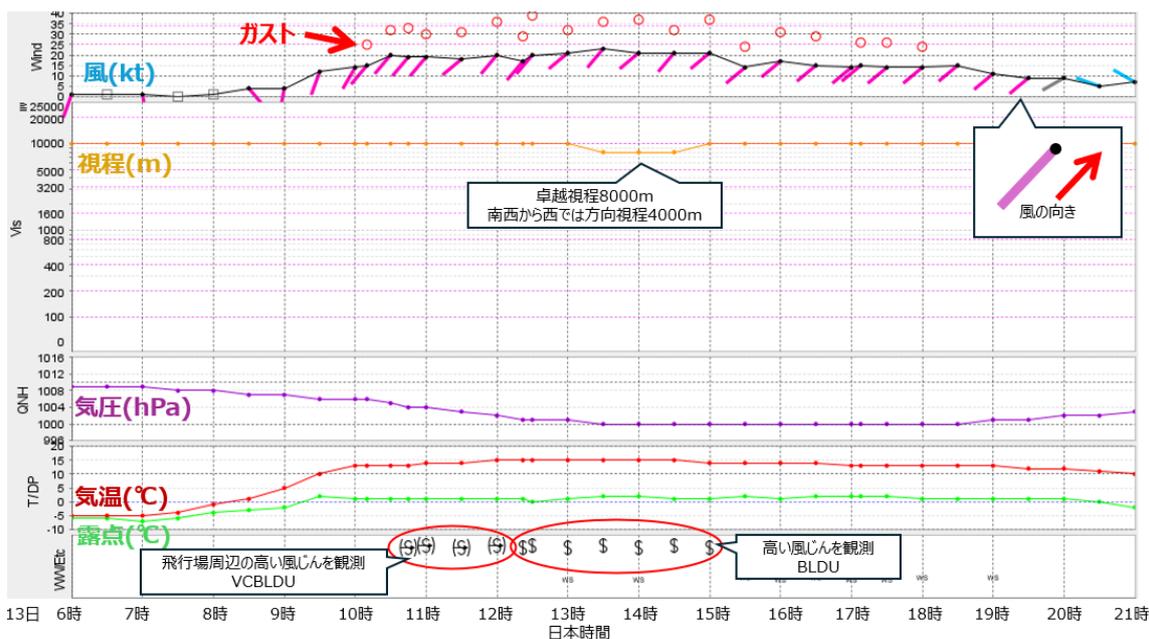
今回の事例から、滑走路ごとに風速差が生じる傾向があることが改めて確認されました。強風時には、代表風の値だけでなく、こうした空港周辺の観測環境の特性も踏まえて状況を把握することが重要と考えられます。気象台では、今後もこのような観測環境等の特性について検証を重ね、その成果を情報提供に活かしていきたいと考えています。

<地上天気図 1月13日15時>

<衛星画像 1月13日15時>



<成田空港の観測記録 1月13日6時~21時>



発行 成田航空地方気象台  
〒282-0004  
千葉県成田市古込字込前 133